

「三重県工業研究所の機能強化・施設整備にかかる基本構想（中間案）」
に対するご意見と県の考え方

○意見募集期間：令和5年12月13日（水）から 令和6年1月12日（金）まで

○意見内容：6名・団体様より、6件のご意見をいただきました。

基本計画の項目	意見数
計画全般	6件
第1章 基本構想策定の経緯	0件
第2章 工業研究所の現状と課題	0件
第3章 三重県の製造業の産業構造と将来展望	0件
第4章 県内企業・業界団体の声	0件
第5章 他県の試験研究機関の取組	0件
第6章 有識者意見交換会の内容	0件
第7章 工業研究所のあるべき姿	0件
第8章 拠点見直しの方向性	0件
合計	6件

○寄せられたご意見に対する対応状況

対応区分	意見数
①反映 最終案に意見や提案内容を反映させていただくもの	0件
②参考 最終案や今後の取組に意見や提案内容を参考にさせていただくもの	6件
合計	6件

番号	該当箇所	ご意見	ご意見に対する考え方	対応区分
1	全般	<p>見直し基本構想の中で、今後窯業研究室がどのような体制で設置、運営されることになるのか具体的な方針が示されておらず大変不安に感じます。</p> <p>中小零細企業で構成される地場産業（萬古焼業界）にとって、自社の設備、試験機器、知見で問題解決を図る、あるいは新商品の開発を行う事は難しく、これまで窯業研究室の試験機器での原料、製土、製品の検証確認、あるいは新製品の試作を行ってまいりました。</p> <p>また、問題の状況に応じ、研究室との共同研究、技術支援等様々な支援を受けており、今後もこのような支援が受けられるのかが心配です。</p> <p>現在、ご承知の通り萬古焼の主力製品である耐熱陶器の原料の供給不安の問題克服のため、新しい耐熱陶土の開発それを使った耐熱陶器の品質の検証等、研究室に対し多くの支援をお願いしており、今後もより一層業界の助けになっていただくことを要請したい。</p>		
2	全般	<p>見直し基本構想（中間案）を見させていただきましたが、萬古焼業界にとって重要な窯業研究室について、具体的な方針が示されておらず期待よりも不安を覚えました。</p> <p>施設と設備が見直しされ、新しいテーマ、分野の研究に取り組みられることは三重県にとってたいへん意義のあることと存じますが、その為に既存の研究事業、技術支援を削減する様なことだけは避けて頂きたい。</p> <p>現在、萬古焼の主力製品であります耐熱陶器の原料の供給不安の問題克服のため、新しい耐熱陶土の開発、原料の分析試験、試作品の品質検証などの研究事業に窯業研究室に大きな支援をお願いしております。耐熱陶器以外の原料の研究開発など今後ますますその必要性は高まるものと思われまます。</p> <p>ぜひ次の50年を見据えた上で地場産業、伝統産業の行く末を真剣に考えて頂いた機能強化と施設整備、支援策を切にお願いいたします。</p>	<p>ご意見をいただき、ありがとうございます。</p> <p>今般の「基本構想（中間案）」では、県内産業の分析や、工業研究所の利用企業のご意見等も踏まえて、工業研究所の機能強化・施設整備の方向性をお示ししており、最終案を経て、本年度内に「基本構想」の策定・公表を予定しています。</p> <p>ご意見いただいた窯業をはじめとする既存の支援分野を含め、各産業分野の具体的な技術支援機能の充実については、本年度中に策定予定の基本構想を踏まえ、次年度以降に策定する「基本計画」において、利用企業・団体等のご意見も踏まえつつ検討してまいります。</p>	②参考
3	全般	<p>研究所の機能強化・施設設備にかかる基本構想（中間案）を拝見いたしました。今後の窯業研究室の体制や方向性についての内容が具体的に示されておらず、不透明な先行きに不安を感じました。</p> <p>現在、萬古焼の耐熱陶器は原材料の問題により大変切迫した状態が続いております。そのため、試験依頼等で窯業研究室を普段以上に利用させていただいております。弊社にとって窯業研究室の研究や設備は大変重要なものであり、このような研究事業や設備を削減するようなことはどうか避けていただきたいです。</p> <p>また、原材料の問題を受けて新しい陶土の開発や耐熱釉の研究にご協力いただいております。今後の理想として、耐熱陶器の実用性の研究面でもご尽力いただきたいと思います。例えば、実際に耐熱陶器を直火にかけ場所ごとの温度変化を調べていただくなど、土鍋の特性を調べて土鍋に関して世界一の研究機関となってほしいです。研究のお力をより実用性につながるものにしていただければ萬古焼の更なる飛躍につながると思います。</p> <p>数少ない耐熱陶器の産地である萬古焼を守っていくために最適な機能強化と施設整備、そしてご支援をよろしくお願い致します。</p>		

番号	該当箇所	ご意見	ご意見に対する考え方	対応区分
4	全般	<p>三重県全体の産業構造として、北勢と中南勢・東紀州と伊賀の地域分けと各地の地場産業のいずれも製造業が引き続き牽引役となるのは、構想案通りだと考える。またDXやCNへの対応、人手不足対応も避けられないことも同案にある通りだと考える。三重県の産業構造も50年前くらべ時代の変化や流れとともに大きく様変わりしてきているのも確かだ。</p> <p>私の属する地場産業である「ばんこ焼」も原材料の問題や人手不足の問題は当然抱えているので、産業構造の問題からして相対的には基本構想には賛成の方向だ。ばんこ焼にもこれまでの地場産業としての集積があるので、次世代の地域産業としてもまたまた新しい役割を担えると考えている。</p> <p>世界中の全ての製造品はいつかは陳腐化する事は避けられないことなので、「過去のばんこ焼」もその例外ではない。しかしこれまでの集積をさらに活かせる様な、地域ならではの三重県の工業研究所としての役割と、より具体的に明確なビジョンを地域産業と一緒に考え、次世代の工業研究所の構想に盛り込んでいただくと、次に製造する商品が、三重県の次の時代に活躍できる商品となることに繋がると考える。</p> <p>企業とすれば自前で全ての研究開発を行うのが当然であるが、中小企業や地域地場産業にとっては、三重県が見据えるこの構想案の方向性に大きな期待を寄せているので、どこの県でも同じような画一的な案にならない様に願いたい。云うは易しかもしれないが、50年先に伝統産業・地域産業としてさらなる発展を県行政と共に歩めるよう一緒に頑張りたい。</p>	<p>ご意見をいただき、ありがとうございます。</p> <p>今般の「基本構想（中間案）」では、県内産業の分析や、工業研究所の利用企業のご意見等も踏まえて、工業研究所の機能強化・施設整備の方向性を示ししており、最終案を経て、本年度内に「基本構想」の策定・公表を予定しています。</p> <p>ご意見いただいたように、これまでの取組実績・知見も生かしつつ、三重県の地域産業を支える工業研究所ならではの役割や支援機能について、本年度中に策定予定の基本構想を踏まえ、次年度以降に策定する「基本計画」において、利用企業・団体等のご意見も踏まえつつ検討してまいります。</p>	②参考
5	全般	<p>三重県庁、そして窯業研究室伊賀分室にはいつも大変お世話になっております。</p> <p>この度の基本構想を拝見したところ、今後の発展が期待される分野としてDXやCNへの対応やAI・ロボットの開発・利用などが挙げられているのは理解できますが、国の研究所でなく公的な県の機関として注力していただくべき分野はむしろ、今後の発展が危惧されている中小企業、伝統産業への支援が重要なのではないかと思います。</p> <p>「2拠点での機能別再整備」として再整備しない窯業研究室伊賀分室については、今後の活用を検討していくとのことですが、陶磁器・セラミック産業への「伊賀地域支援拠点」としてできる限りその機能を残していただきたく思います。</p>	<p>ご意見をいただき、ありがとうございます。</p> <p>今般の「基本構想（中間案）」では、県内産業の分析や、工業研究所の利用企業のご意見等も踏まえて、工業研究所の機能強化・施設整備の方向性を示ししており、最終案を経て、本年度内に「基本構想」の策定・公表を予定しています。</p> <p>ご意見いただいた窯業分野(伊賀焼)における支援機能については、伊賀分室の今後の活用を含めて、本年度中に策定予定の基本構想を踏まえ、次年度以降に策定する「基本計画」において、利用企業・団体等のご意見も踏まえつつ検討してまいります。</p>	②参考
6	全般	<p>確かに、伊賀は小さな産地ではありますが、2拠点での再整備となることへの考えは理解できます。</p> <p>ただ、小さな産地といえども、伝統的な焼き物の産地として新技術の試験、品質管理などの施設活用について、現在の施設において出来るだけ活用していただきたい希望はあります。</p> <p>伊賀の拠点を少しでも長く存続いただければ産地としては助かります。</p>	<p>ご意見いただいた窯業分野(伊賀焼)における支援機能については、伊賀分室の今後の活用を含めて、本年度中に策定予定の基本構想を踏まえ、次年度以降に策定する「基本計画」において、利用企業・団体等のご意見も踏まえつつ検討してまいります。</p>	